



発行 / (公財) 広島市文化財団 文化事業部 事業課
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMSアステールプラザ内
TEL082-244-0750 FAX082-245-0246
Eメール bunka@cf.city.hiroshima.jp
ホームページ http://www.cf.city.hiroshima.jp/bunka/
編集・印刷 / 大村印刷株式会社
表紙イラスト / 田中 聡

to you



吉清 彩香さん(よしきよ・あやか) 作曲家・ピアニスト・講師

4歳からピアノを始め、15歳より作曲を専門的に学ぶ。桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科作曲専攻卒業。同大学研究科一年目終了後、国立ミュンヘン音楽演劇大学大学院作曲科卒業。ピアノを品川幸子、三瀬和朗、ローラン・テシュネの各氏に、作曲を故平吉毅州、安良岡章夫、フォン・ボーゼの各氏に師事。ドイツ留学中に、ルーディ・シュテファン作曲賞受賞、ギュンター・ピアラス作曲コンクール3位入賞。現在は、歌や器楽の伴奏、サイレント映画の伴奏などの演奏活動、作・編曲活動をする傍ら後進の指導にもあたる。ライフワンミュージック講師。

上映会 サウンド・アンド・サイレント 『大人の見る繪本 生れてはみたけれど』

サイレント映画の名作をピアノの生演奏とともに鑑賞するノスタルジックな上映会。今年の作品は巨匠、小津安二郎監督のサイレント期の傑作。年に数回の貴重な機会です。ぜひお誘いあわせの上、お出かけください。

演奏 / 吉清 彩香(ピアノ)
時 / 5月4日(土・祝)14:00 ~
会 / 映像文化ライブラリー ホール
料 / 大人380円
シニア(65歳以上)・高校生180円
小中学生無料
問 / 映像文化ライブラリー
TEL.082-223-3525

上映作品 大人の見る繪本 生れてはみたけれど

1932(昭和7)年 監督 / 小津安二郎
出演 / 斎藤達雄、吉川満子、菅原秀雄、安井小僧
東京の郊外に引っ越してきたサラリーマン一家。小学生の兄弟は、ガキ大将との喧嘩に明け暮れる。父親が上司にペコペコするのを見て幻滅した二人は、ハンストを決行するが…。子どもの世界と大人の世界を対比させながら、人生の悲哀をにじませる。



ひとこえ

音楽で お客様と映画の 橋渡し役になりたい。

『戦艦ポチョムキン』、『カリガリ博士』、『猛進ロイド』、和製アニメーションなど貴重なサイレントの名作にオリジナルのピアノ生演奏で彩りを添えてきた吉清さん。「サウンド・アンド・サイレント」の魅力について伺いました。

■「サウンド・アンド・サイレント」とは

約100年~80年前のサイレント映画にピアノの生演奏をつけて上映します。即興で映像に合う音楽を演奏し、自然風景や登場人物の動きを表現する効果音なども表現します。準備は入念にしますが、あえて譜面は書きません。伴奏はタイミングが命なので、楽譜通りに弾くことに注力するより、映像に素直に反応し、自分も映画を楽しみながら演奏する方がしっくりくるように思います。私は独学でサイレント映画の伴奏をやってきたので、他の演奏者にはまた違ったやり方があると思います。きっと昔も演奏者によって音色が変わり、お客様が作品から受ける印象も違っていたのではないのでしょうか。ピアノの音でお客様がよりいっそう映画に入り込み、楽しんでもらえたら嬉しいです。

■どんな準備をしますか？

上映作品が決まるとまずDVDを購入し、作品を観ながら全てのシーンをノートに書き出し、登場人物、風景、物語の展開などポイントをメモします。次にピッタリくる音が見つかるまで、映像を観ながらいろんな音を試します。主要な登場人物には、キャラクターに合わせたフレーズを作ることもあります。繰り返し練習し、本番を迎える頃には完全に全てのシーン、セリフが頭に入っています。

■サイレント映画の魅力

私は「サウンド・アンド・サイレント」の伴奏をするまでサイレント映画を観たことがなかったのですが、実際に観るといつも作り手の作品に込めた情熱が伝わってきて感服します。白と黒の使い方の見事さ、技術や物資に限りがある中で驚くほど労力を費やし工夫して撮っていることなど、アナログならではの力強さを感じます。若い人も十分楽しむことができると思います。今回の『生れてはみたけれど』もとても素晴らしい作品なので、ぜひ多くの人に観に来ていただきたいです。